



Title	日本の高等教育における外国成績・資格評価の実施状況
Author(s)	黒田, 千晴
Citation	多文化社会と留学生交流 : 大阪大学留学生センター研究論集. 2007, 11, p. 83-92
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/50656
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

日本の高等教育における外国成績・資格評価の実施状況**

黒田 千晴*

要 旨

本稿は、科学研究費補助金、基盤研究 (B)「高等教育における外国成績・資格評価システムの国際比較研究」(研究代表者:堀江未来)の一環として実施した「国内の高等教育機関における外国成績・資格評価システムについてのアンケート調査」の結果を提示したものである。国際的な学生の流動化が拡大する中で、外国の教育機関で学習した志願者の学歴・学位や成績を適切に審査・評価することが益々重要であると思われる。本調査を通して、日本の高等教育における外国成績・資格の審査・評価は、個々の教職員の経験や知識に大きく依存しており、適切な審査・評価が行われているか不透明であることが明らかになった。日本の大学では、志願者の可否を筆記試験等の「入試」の結果に基づいて判定するのが一般的であり、そのことが外国成績・資格評価システムの確立を妨げてきた一つの要因であると思われる。今後、益々競争が激化する国際高等教育市場において、優秀な外国人留学生を獲得するには、これまでの伝統的な「入試」に依存した留学生選抜だけでなく、欧米諸国のような書類審査(外国成績・資格評価)に基づいた渡航前入学許可のシステムを発展させることが不可欠であると思われる。

【キーワード】外国成績、資格評価、留学生選抜

1 はじめに

欧州ならびに北米などでは、留学生や移民など外国の教育機関での学習歴を持つ外国人を多く受け入れてきた社会的・歴史的背景により、外国の教育機関の成績や資格を評価するシステム (Foreign Credential Evaluation System) が非常に発達している。また一般的に、高等教育機関では、志願者の選抜が、入学試験(筆記試験・面接試験)ではなく、志願者の高等学校での成績、志望動機のエッセイ、推薦状などを基に評定されるため、志願者の成績を適切に審査・評価することが当該志願者の可否を決定する上で、重要な要素となっている。そのため、留学生選抜においても、高等教育機関は、外国人志願者の選抜に際して、個々の教育機関で学歴・学位・成績評価 (Credential

evaluation) をおこなうだけでなく、外国の成績・資格評価を実施する国又は第三者機関を利用することも珍しくない。さらに、ヨーロッパ諸国や米国では、外国の成績・資格評価に従事する専門家を育成するシステムが発達しており、Credential Evaluators (成績評価者) が専門職として認知されている。

一方、日本の大学において、外国の教育機関で修められた学歴・学位証明書、成績証明書の審査・評価が必要とされるのは、主として留学生選抜においてであるが、外国人志願者の成績評価は、個々の大学の入試を所轄する部門、あるいは国際交流担当部署において実施されており、欧州や米国のような第三者機関を利用することは一般的ではないと思われる。

科学研究費補助金、基盤研究 (B)「高等教育における外国成績・資格評価システムの国際比較研究」

* 大阪大学工学研究科 専任講師

**本調査は、平成17-18年度 科学研究費補助金 基盤研究 (B) 高等教育における外国成績・資格評価システムの国際比較研究」(研究代表者 堀江未来)の一環として実施した。

(研究代表者:堀江未来)では、国際的な学生の流動化が拡大する中で、外国の教育機関で学習した志願者の学歴・学位や成績を適切に審査・評価することが益々重要になるとの認識に基づき、欧州ならびに北米を対象に、高等教育における外国成績・資格評価システム (Foreign Credential Evaluation System) と外国成績評価の専門家 (Credential Evaluators) の育成状況に関する国際比較調査を実施した。それと同時に、日本の高等教育機関の留学生選抜において、外国人志願者が外国の教育機関で取得した学位や、成績がどのように取り扱われているのか現状を把握するべくアンケート調査を実施した。本稿では、上記の科研プロジェクトの一環として実施した日本の大学を対象としたアンケート調査の結果を提示する。

2 調査の概要

2-1 調査目的・方法・期間

本調査では、日本の高等教育機関において留学生選抜等の際に、外国人志願者の学歴・学位・成績がどのように取り扱われ評価されているのかを明らかにすることを主要な目的とし、留学生選抜における外国人志願者の出願書類 (学歴・学位証明書、成績証明書) の審査のプロセスの解明に焦点を当て、質問紙を作成した。質問は、紙の質問紙とオンライン上のアンケートシステムの2種類を作成した。質問紙については、郵送・FAX・E-Mailの添付ファイルの3つの方法で配布・回収した。オンライン上のアンケートシステムについては、アンケートシステムが掲載されているURLを回答者に通知し、回答者にインターネット上で回答してもらった。調査期間は、2005年12月～2006年2月である。なお、アンケートの設問は、本稿の末尾に示す (参考資料1)。

2-2 質問項目

設定した質問項目は、大きく分けて①回答者の属性、②当該教育機関における外国人志願者の教育歴に関する

質問 (Educational Background)、③外国人志願者の出願資格 (Qualification) 審査に関する質問、④外国人志願者の出願書類 (Credential Evaluation) の審査に関する質問、⑤留学生選抜の合否判定における、書類審査と入学試験 (筆記・面接等の試験) の比重の5項目である。

2-3 調査対象・回答者の属性

調査対象校は、文部科学省「留学生受け入れの概況 (平成16年版)」²⁾の発表に基づき、在籍留学生数の多い大学から順に30校を選出した。これら30校で入試業務を担当している156部署に、質問紙 (あるいはオンラインアンケートシステムのURL) 193部を送付した。本アンケート調査は、留学生の入試業務に携わっている事務職員を回答者として想定し作成したが、一部、教員からも回答が得られた。最終的に、26校 (30校中) の96部署 (156部署中) のから101名の回答が得られた。アンケート回収率は、52.3%であった。

表1は、回答者の所属大学の属性 (国立・私立の別)、表2は、回答者の所属部局を表したものである。

表1 Q1回答者の所属大学の属性

国 立	81
私 立	20
計	101

表2 Q1回答者の所属部局

部局	人
理工系	37
医学系	14
社会学系	17
人文系	14
その他 (学際的な部局)	4
入試部門	12
国際交流 (留学生) 部門	3
計	101

表3は、回答者の所属先機関における留学生数を表しており、表4は、在学生全体に占める留学生の比率を表している。

表3 Q2留学生の人数と比率

留学生の人数	人
0～50	48
51～100	19
101～150	10
151～200	3
201～300	5
301～400	1
401～500	2
501～600	12

※無回答1名

表4 Q2在学生全体に占める留学生の比率

在学生全体に占める 留学生の比率	人
0～3%未満	25
3～5%未満	17
5～8%未満	20
8～10%未満	6
10～20%未満	20
20～30%未満	6
30～40%未満	2
40～50%未満	3
50%以上	1

2-4 留学生のバックグラウンド

外国の学歴・学位、成績の審査・評価方法に関する質問に入る前に、留学生の教育歴（Educational Background）について、自由記述式の回答を求めた。学部・大学院などの在学レベルにより、留学生のバックグラウンドも様々であるが、大まかにみて、以下のような傾向が指摘できる（Q3）。

- 学部レベルに入学する留学生は、日本国内の日本語学校を経て入学する学生が30%程度を占める。（33人/101人）
- 大学院留学生は、研究生として在籍してから大学院を受験する者が主流である。（68人/101人）
- 英語コースなど特別コースについては、海外からの直接出願を行っているケースもみられる。（17人/101人）

3 外国人志願者の「出願資格」・「出願書類」審査のプロセス

3-1 「出願資格」の審査についての質問

次に、「出願資格」の審査を行っている部門を問う質問を設定した。選択肢は、a. 全学の入試担当部署の職員が審査する、b. 国際交流室、留学生課、国際交流センターなど主として外国人留学生に関する事務を所管している部署が留学生入試も取り扱っており、その担当職員が審査する、c. 各学部・研究科事務室、教務課が留学生入試も取り扱っており、その担当職員が審査する、d. 留学生入試に関する委員会が全学的あるいは各学部、研究科ごとに設置されており、そこで審査する、e. その他、の5項目を提示した。表5は、その結果を表したものである。

表5 Q4「出願資格」の審査を主管する部門

回答	データ数	選択率
a	11	11.0%
b	2	2.0%
c	29	29.0%
d	24	24.0%
e	34	34.0%
有効データ数	100	100.0%
重複データ数	2	
回答者数	98	

e.その他を選択した回答者には、具体的な記述を求めた。主要な回答は、以下のようなものがあつた（Q5）。

- 事務職員が形式的に審査し、該当しない場合、事務部に申し出る。
- 出願のあつた専門分野の教員が審査している。
- 各専攻で審査し、学務委員会です承する。
- 学生係で受理し、疑義がある場合は留学生担当教員で審議し、最終的には志望専攻（英語コースは判定会議）で審議する。
- 出願資格審査はしない。
- 専攻長、教務委員及び受入教員で審査する。

なお、「出願資格」の審査に関わる人員の構成については、教員のみが審査に関わるとの回答が、29人、

職員のみが24人、教員と職員の双方が審査に関わるとの回答が、29人、各専攻によって異なるとの回答が3人、状況によって異なるとの回答が1人、であった。

3-2 「出願書類」の審査についての質問

続いて、留学生選抜における外国人志願者の「出願書類」（学歴・学位証明書、成績証明書等）の審査を主管する部を問う質問を設定した。選択肢は、a. 全学の入試担当部署の職員が審査する、b. 国際交流室、留学生課、国際交流センターなど主として外国人留学生に関する事務を所管している部署が留学生入試も取り扱っており、そこの担当職員が審査する、c. 各学部・研究科事務室、教務課が留学生入試も取り扱っており、そこの担当職員が審査する、d. 留学生入試に関する委員会が全学的あるいは各学部、研究科ごとに設置されており、そこで審査する、e. その他、以上の5項目を設定した。表6は、その結果を表したものである。

表6 Q7「出願書類」の審査を主管する部門

回答	データ数	選択率
a	7	7.2%
b	0	0.0%
c	33	34.0%
d	22	22.7%
e	35	36.1%
有効データ数	97	100.0%
重複データ数	2	
回答者数	95	

eその他を選択した回答者には、具体的な記述を求めた。主要な回答は、以下のようなものがあつた（Q8）。

- 志望領域（各専攻）で審査する。
- 各専攻で審査し、学務委員会です承する。
- 学生係で受理し、疑義がある場合は留学生担当教員で審議し、最終的には志望専攻（英語コースは判定会議）で審議する。
- 研究生受入時に受入教員が責任を持って審査する。
- 専攻長、教務委員及び受入教員で審査する。
- 入学試験実施委員が審査する。

- 選択肢のbの手順を経てから、cで審査する。
- 選択肢のaとbの形式で審査する。海外直接入試の場合は担当教職員が審査する。

なお、「出願書類」の審査に関わる人員の構成については、教員のみが審査に関わるとの回答が、22人、職員のみが23人、教員と職員の双方が審査に関わるとの回答が、31人、各専攻によって異なるとの回答が5人、状況によって異なるとの回答が1人、であった（Q9）。

4 外国成績評価の実施状況

4-1 学歴・学位/成績証明書の審査・評価のプロセス

4-1-1 審査・評価の対象となる項目

続いて、外国人志願者が外国の教育機関で修めた学歴・学位や成績をどのように審査・評価しているのかという点について質問した。まず、外国の教育機関の学歴・学位、成績を審査・評価する際に、審査・評価の対象となる項目が何か、選択肢を提示して回答を求めた。提示した選択肢は、a. 学歴（学位取得）証明書・成績証明書の真偽、b. 志願者の成績、c. 志願者の取得単位数、d. 志願者の履修科目の内容、e. 当該教育機関の教育・学術水準（当該教育機関が当該国の政府機関、あるいはそれに準ずる機関によって認可を受けているかどうか等）、f. 当該教育機関の組織的背景・歴史（政治的哲学的背景・機関の変遷等）、g. 当該教育機関のランキング順位、h. その他の8項目である。

表7 Q10学歴・成績の評価方法

回答	データ数	選択率
a	54	29.3%
b	40	21.7%
c	30	16.3%
d	24	13.0%
e	19	10.3%
f	1	0.5%
g	0	0.0%
h	16	8.7%
有効データ数	184	100.0%
重複データ数	100	
回答者数	84	

選択肢aの「学歴（学位取得）証明書・成績証明書の真偽」が最も採択率が高くなっているが、採択率は約30%に過ぎず、逆に約70%の回答者は、学歴証明書、成績証明書の真偽を確認していないということになる。なお、志願者の成績や、取得単位についても、それぞれ採択率は21.7%、16.3%と極めて低い割合となっており、留学生選抜において、志願者の過去の成績はそれほど重視されていないことがわかる。

h.その他を選択した回答者には、具体的な記述を求めた。主要な回答は、以下のようなものがあつた（Q11）。

- 各専攻の入試委員会がそれぞれの基準で審査する。
- 不明・非公開

4-1-2 証明書の真偽判定に関する質問

さらに、Q10の設問でa「証明書の真偽」を選択した回答者に対して、証明書の真偽を誰がどのように判定しているのかを問う選択式の質問を設定した。選択肢は、a.担当の教職員が経験と知識により判定、b.本学で蓄積しているデータベースやマニュアルに沿って判定、c.本学に在籍する当該志願者と出身国を同じくする教職員に照会、d.当該志願者の出身国の大使館・領事館等に照会、e.当該志願者の出身国の教育部等の省庁に照会、f.外国の学位・評価に関する情報サービス機関（AACRAO・WES等）を利用、g.その他の7項目である。

表8 Q12証明書の真偽判定の方法

回答	データ数	選択率
a	46	46.0%
b	16	16.0%
c	7	7.0%
d	16	16.0%
e	10	10.0%
f	0	0.0%
g	5	5.0%
有効データ数	100	100.0%
重複データ数	45	
回答者数	55	

表8をみると明らかなように、a.担当の教職員が経験と知識により判定、を選択した回答者が46%と高

い採択率となっており、教職員の経験と知識に依存して、証明書の真偽を判定していることがわかる。また、16%と採択率はさほど高くはないが、証明書の真偽判定について、データベースやマニュアルを備えている部署があつた。なお、北米等で利用されている情報サービス機関（AACRAO・WES等）を利用すると回答した者は0%であつた（選択肢f）。

4-1-3 志願者の成績評価・判定に関する質問

Q10の設問で、b. 志願者の成績、c. 志願者の取得単位数、d. 志願者の履修科目の内容、を選択した回答者を対象に、志願者の成績をどのように評価・判定しているかということを問う質問を設定した。選択肢は、a.外国の教育機関での成績を本学独自の評価基準に読み替えて数値化し評価する、b.担当の教職員が経験と知識により個別に評価する、c.本学に在籍する当該志願者と出身国を同じくする教職員に照会し、個別に評価する、d.外国の学位・評価に関する情報サービス機関（AACRAO・WES等）を利用、e.その他の5項目である。

表9 Q13志願者の成績評価・判定に関する質問

回答	データ数	選択率
a	4	9.1%
b	36	81.8%
c	1	2.3%
d	1	2.3%
e	2	4.5%
有効データ数	44	100.0%
重複データ数	3	
回答者数	41	

この設問に対する回答については、b.担当の教職員が経験と知識により個別に評価する、の採択率が約80%と極めて高くなっている。

3-1-4 志願者の学歴・学位、成績が合否判定に占める割合

最後に、志願者の学歴・学位、成績が合否判定に占める割合についての質問を設定した。選択肢は、a.試験（筆記・面接）の結果（あるいは試験の結果と志望

動機、研究計画書などの提出書類)で合否を判定する。
当該志願者の学歴・学位、成績は合否判定の対象外。

b.試験(筆記・面接)の結果、志望動機、研究計画書などの提出書類当該志願者の学歴・学位、成績を総合的に判断し、合否判定をおこなう。

c.試験(筆記・面接)はおこなわず、志望動機、研究計画書などの提出書類、当該志願者の学歴・学位、成績で判断し合否判定をおこなう。(渡日前入学許可を含む) d.その他の4項目である。

表10 Q17志願者の学歴・学位、成績が合否判定に占める割合

回答	データ数	選択率
a	24	27.0%
b	49	55.1%
c	4	4.5%
d	12	13.5%
有効データ数	89	100.0%
重複データ数	4	
回答者数	85	

d.その他を選択した回答者には、具体的な記述を求めた(Q18)。得られた回答は以下の通りである。

- TOEFL・GREの成績が優秀なものは、面接試験のみで合否を判定する。

表10の結果に示されるように、試験(筆記・面接)の結果、志望動機、研究計画書などの提出書類当該志願者の学歴・学位、成績を総合的に判断し、合否判定をおこなう(選択肢b)の方法を採用している大学が約55%と多数である。アメリカの大学のように、書類のみで合否を判定する(選択肢c)の方法を採用している大学は、ごく少数である(採択率4%)。

5 おわりに

本調査を通して、日本の高等教育における外国成績・資格評価は、「証明書の真偽」の判定でさえ、約50%の回答者が十分な審査をしておらず、またその評価手法も個々の教職員の経験や知識に大きく依存しており、適切な審査・評価が行われているか極めて不透明であることが明らかになった。日本の大学は、伝統的に志願者の合否判定を筆記試験等の「入試」の結果に基づいて行っており、そのことが外国成績・資格評価システムの確立を妨げてきた一つの要因であると思われる。「入試」による志願者の合否判定は、志願者が個々の大学が設定する学力基準に到達しているかどうかを判断する明確な指標であり、合格者選抜の有用な方法であるが、今後、益々競争が激化する国際高等教育市場において、優秀な外国人留学生を獲得するには、これまでの伝統的な「入試」に依存した留学生選抜だけでなく、欧米諸国のような書類審査(外国成績・資格評価)に基づいた渡航前入学許可のシステムを発展させることが不可欠であると思われる。

参考文献

- American Association of Collegiate Registrars and Admissions Officers (2001) *The AACAO International Guide: A Resource for International Education Professionals*
- Association of International Educators (2002) *Foreign Educational Credential Analysis-NAFSA Workshop Participant Manual*
- Association of International Educators (2002) *Foreign Educational Credential Analysis-Credential Evaluation Preparation*

(参考資料)

『国内の高等教育機関における外国成績・資格評価システムについてのアンケート調査』

※本研究における『留学生の定義』は「外国の教育機関で学習した日本語を母語としない学生」とし、入国管理上の「留学生」の定義には従わないものとします。

Q1. 大学名（学部・研究科名）、回答者のご所属、ご氏名、ご連絡先をご記入ください。

a. アンケート回答日

b. 大学名

c. 学部・研究科名

※学部・研究科単位で回答する場合は、大学名と合わせて、学部・研究科名をご記入ください。

d. 回答者の所属

ご所属

ご職名

e. 回答者の氏名・連絡先

ご氏名

ご連絡先 E-Mail

電話

Q2. 貴学の学生総数、留学生総数をご記入ください。

※学部・研究科単位で回答する場合は、該当人数のみご記入ください。

a. 学生総数（ ）人

※学部・研究科単位で回答する場合は、該当人数のみご記入ください。

b. 留学生総数（ ）人

※学部・研究科単位で回答する場合は、該当人数のみご記入ください。

Q3. 回答者が担当なさっている部局（全学・或いは学部・研究科）の正規課程（学位を取得するコース）に入学する留学生のバックグラウンドについて、記入例を参考に、記述してください。

<記入例>

例:学部課程に入学する留学生は日本国内の日本語学校を経て入学するものが多数を占める。大学院に入学する留学生は研究生として在籍してから、大学院を受験する者が多数を占める。海外から直接入学する者はほとんどいない。

例:学部課程に入学する留学生は本学の留学生別科を経由して入学する。大学院に入学する留学生は、日本国内の大学を卒業後、正規課程に直接入学する（研究生を経ないで）者が多数を占める。

例:大学院の英語コースに入学する留学生は、渡日前に入学選抜、入学許可を行っている。英語コース以外のものは、研究生として在籍してから、大学院を受験する者が多数を占める。

Q4. 外国人志願者（留学生入試）の「出願資格」の審査について、お聞きます。

貴学では、留学生入試等において外国の教育機関で学修した志願者の「出願資格」の審査はどのようにおこなっていますか。当てはまるものを1つだけ選択してください。

- a. 全学の入試担当部署の職員が審査する
- b. 国際交流室、留学生課、国際交流センターなど主として外国人留学生に関する事務を所管している部署が留学生入試も取り扱っており、その担当職員が審査する
- c. 各学部・研究科事務室、教務課が留学生入試も取り扱っており、その担当職員が審査する
- d. 留学生入試に関する委員会が全学的あるいは各学部、研究科ごとに設置されており、そこで審査する
- e. その他

Q5. Q4で「その他」を選択した方は、外国人志願者（留学生入試）の「出願資格」審査の方法を、具体的に記述してください。

Q6. Q4で回答したで回答した外国人志願者（留学生入試）の「出願資格」を審査する部署・委員会等の構成はどのようなになっていますか。記入例を参考に記入してください。

<記入例>

教員（ ）名 [内外国の成績・資格評価に関する専門的知識を持つ教員（ ）名]

職員（ ）名 [内外国の成績・資格評価に関する専門的経験や知識を持つ職員（アドミッション・オフィサー）

日本人職員（ ）名 外国人職員（ ）名]

その他（具体的に 名）

Q7. 外国人志願者（留学生入試）の「出願書類」の審査について、お聞きます。

貴学において、留学生入試等で外国の教育機関で学修した志願者の「出願書類」（学歴・学位証明書、成績証明書等）の審査はどのようにおこなっていますか。当てはまるものを1つだけ選択してください。

- a. 全学の入試担当部署の職員が審査する
- b. 国際交流室、留学生課、国際交流センターなど主として外国人留学生に関する事務を所管している部署が留学生入試も取り扱っており、その担当職員が審査する
- c. 各学部・研究科事務室、教務課が留学生入試も取り扱っており、その担当職員が審査する
- d. 留学生入試に関する委員会が全学的あるいは各学部、研究科ごとに設置されており、そこで審査する
- e. その他

Q8. Q7で「その他」を選択した方は、外国人志願者（留学生入試）の「出願書類」審査の方法を、具体的に記述してください。

Q9. Q7で回答した外国人志願者（留学生入試）「出願書類」の審査を担当する部署・委員会等の構成はどのようなになっていますか。記入例を参考に記入してください。

<記入例>

教員（ ）名 [内外国の成績・資格評価に関する専門的知識を持つ教員（ ）名]

職員（ ）名 [内外国の成績・資格評価に関する専門的経験や知識を持つ職員（アドミッション・オフィサー）

日本人職員（ ）名 外国人職員（ ）名]

その他（具体的に 名）

Q10. 回答者が担当なさっている部署の留学生入試において外国人志願者が修めた外国の教育機関の学歴・学位や成績をどのように審査・評価しているのかという点についてお聞きします。

外国の教育機関の学歴・学位、成績を審査・評価する際、その対象となる項目はなんですか。当てはまるものを全て選択してください。

- a. 学歴（学位取得）証明書・成績証明書の真偽
- b. 志願者の成績
- c. 志願者の取得単位数
- d. 志願者の履修科目の内容
- e. 当該教育機関の教育・学術水準（当該教育機関が当該国の政府機関、或いはそれに準ずる機関によって認可を受けているかどうか等）
- f. 当該教育機関の組織的背景・歴史（政治的哲学的背景・機関の変遷等）
- g. 当該教育機関のランキング順位
- h. その他

Q11. Q10でg「当該教育機関のランキング」を選択した方は、依拠するランキングを記入してください。h「その他」を選択した方は、具体的に記述してください。

Q12. Q10でa「学歴（学位取得）証明書・成績証明書の真偽」を選択した方にお聞きします。学歴（学位取得）証明書・成績証明書の真偽をどのように判定していますか。当てはまるものを全て選択してください。

- a. 担当の教職員が経験と知識により判定
- b. 本学で蓄積しているデータベースやマニュアルに沿って判定
- c. 本学に在籍する当該志願者と出身国を同じくする教職員に照会
- d. 当該志願者の出身国の大使館・領事館等に照会
- e. 当該志願者の出身国の教育部等の省庁に照会
- f. 外国の学位・評価に関する情報サービス機関（AACRAO・WES等）を利用
- g. その他

Q13. Q10で、b「志願者の成績」、c「志願者の取得単位数」、d「志願者の履修科目の内容」のいずれか、あるいは全てを選択した方にお聞きします。志願者が外国の教育機関で取得した成績（証明書）をどのように評価していますか。当てはまるものを全て選択してください。

- a. 外国の教育機関での成績を本学独自の評価基準に読み替えて数値化し評価する
- b. 担当の教職員が経験と知識により個別に評価する
- c. 本学に在籍する当該志願者と出身国を同じくする教職員に照会し、個別に評価する
- d. 外国の学位・評価に関する情報サービス機関（AACRAO・WES等）を利用
- e. その他

Q14. Q10で、e「当該教育機関の教育・学術水準」、f「当該教育機関の組織的背景・歴史」のいずれか、あるいは全てを選択した方にお聞きします。当該教育機関の教育・学術水準、組織的背景・歴史などの情報をどのように入手していますか。当てはまるものを全て選択してください。

- a. 担当の教職員が経験と知識により判定
- b. 本学で蓄積しているデータベースやマニュアルに沿って判定
- c. 当該教育機関のWeb Siteなどから情報を収集
- d. 本学に在籍する当該志願者と出身国を同じくする教職員に照会
- e. 当該志願者の出身国の大使館・領事館等に照会
- f. 当該志願者の出身国の教育部等の省庁に照会
- g. 外国の学位・評価に関する情報サービス機関（AACRAO・WES等）を利用
- h. その他

Q15. Q11、12、13のいずれか、あるいは全てで「その他」を選択した方は、具体的に記述してください。

Q16. Q11、12、13のいずれか、あるいは全てで「外国の学位・評価に関する情報サービス機関（AACRAO・WES等）を利用」を選択した方は、利用している機関名をお書きください。（複数ある場合は、全て記入してください。）

利用機関名：（ ）

Q17. 外国人志願者が外国の教育機関で修めた学歴・学位、成績は、当該志願者の合否判定においてどれぐらいの比重を占めますか。当てはまるものを1つだけ選択してください。

- a. 試験（筆記・面接）の結果（あるいは試験の結果と志望動機、研究計画書などの提出書類）で合否を判定する。当該志願者の学歴・学位、成績は合否判定の対象外。
- b. 試験（筆記・面接）の結果、志望動機、研究計画書などの提出書類当該志願者の学歴・学位、成績を総合的に判断し、合否判定を行う。
- c. 試験（筆記・面接）は行わず、志望動機、研究計画書などの提出書類、当該志願者の学歴・学位、成績で判断し合否判定を行う。（渡日前入学許可を含む）
- d. その他

Q18. Q17でd「その他」を選択した方は、具体的に記述してください。

Q19. 貴学あるいは貴研究科において、外国の教育機関において取得された学歴（学位）、成績の取り扱いについてのガイドライン等がございましたら、差し支えない範囲で自由に記述してください。

Q20. このアンケートに関するご意見・ご感想等がございましたら、記述してください。

ご協力ありがとうございました。